

### “藤沢のまちを元気にする”市民の『やりたい』が集積した『希望の家』

上位計画を踏まえた本業務の実施方針について

#### エリアビジョンの記録と『希望の家』

OUR Projectは単に藤沢市を文化拠点とするだけでなく、計画地の枠を超え、藤沢駅周辺に立ち上る『希望の家』を核として、市民の『やりたい』を核として、まちづくりを推進してまいります。



#### 市民の『やりたい』が集積した『希望の家』

OUR Projectでつくられる建物は市民の『やりたい』が集積した未来の希望であると考えます。それは大きく膨らみつつ、変化していくでしょう。それに応答できるような建築として、『希望の家』を実現します。

#### 本プロジェクトの検討プロセスの期待できる効果について

##### ビジョンを実現するための要素とコンテンツを提示し、しつこく『藤沢らしく持続する』まちづくりの展開（図2）

ビジョンを実現するための『コンテンツ』は、様々な市民のチャレンジや出会いの機会を生み出すことができるだけでなく、コンテンツやその担い手となるプレイヤーと市民のまちを結びつけることにより、そのまちを活性化させるための原動力を生み出すことができます。

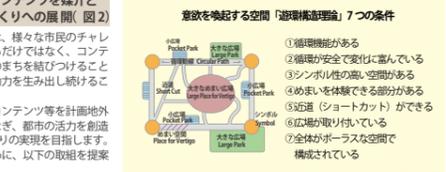
私たちは、本プロジェクトの早期段階からコンテンツ等を計画地外の周辺エリアにも展開し、ひととひとをつなぎ、都市の活力を創造できながら、『藤沢らしく持続する』まちづくりの実現を目指します。本計画を周辺のみならず結びつけるために、以下の取組を提案します。

#### 提案

- ①計画地の整備工事に着手する前、藤沢駅周辺エリアの既存ストック（公園・広場・街路等の公共施設や民間の遊休不動産等）を活用し、OUR Projectのコンテンツを含め、様々なアクティビティ（先行コンテンツ）を展開します。
②周辺エリアに『藤沢クワイエットセンター』を設置し、設計者が常に地域とつながりながら設計対話等に取り組む。

#### 期待される効果等

- ①コンテンツ・まちづくりの原動力（担い手）の発見・育成
コンテンツの醸成や担い手づくりは長い時間を要すると思われることから、先行コンテンツの場を創出し、設計者等も携わりながら『育む』期間を設けることで、複合施設の供用開始時までに市民の場を本プロジェクトに移行することが期待できます。
②複合施設設計計画・管理運営計画の内容の深化化
先行コンテンツ自体も、藤沢クワイエットセンターを介した設計者等との密な対話により、その空間や取組内容のチューニングを行えるとともに、これらの実践経験から、複合施設で展開する際のニーズや課題等の抽出が可能となり、ビジョンの実現性が高い計画の立案に向けたフィードバックができると考えられます。
③周辺エリアの価値向上、まちづくりの推進の促進
周辺エリアの既存ストックをコンテンツの媒介として活用することにより地域活性化を図り、早期にエリアの価値を高めることも、計画地と相乗効果の高い都市機能等の需要の掘り起こしを行い、建替え・リノベ・開発等といった民間主導のまちづくりの機運を高めることが期待されます。



### 管理運営計画者と連携を密にとり、質の高いリーズナブルな設計を期間内に完成させます

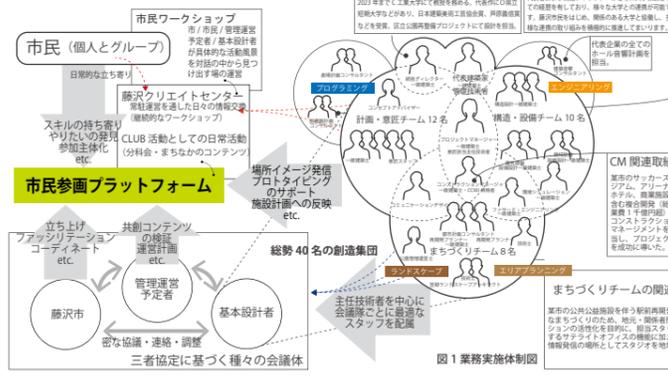
#### 並行する管理・運営計画の策定を考慮した本業務の具体的な工程計画

Table with columns for '項目' (Item), '年月' (Month/Year), and '内容' (Content). It details the project schedule from 2024 to 2026, including phases like '基本設計' (Basic Design), '設計' (Design), and '工事' (Construction).

### 豊かな実績とチャレンジマインドをもつ創造集団によってプロジェクトを推進します

#### 本プロジェクトの検討プロセス基本設計者に求められる役割を踏まえ、望ましい本業務の実施体制について

「地域と共に歩む、経験豊かな管理技術者」
管理技術者は、藤沢市の高校を卒業後、1964年に大学を卒業し、著名な設計事務所に入社。独立後、複数の国立大学で教授を歴任。現在は名誉教授として活動しています。
「豊かな実績とチャレンジマインドをもつ創造集団による、基本設計者の役割を拡張した業務実施体制」
ハモノ先行ではなく「市民のやりたいこと」をサポートする本プロジェクトの基本姿勢には大変共感します。一方で、やりたいこと」は場所と結びついて初めて具体的に見えてくるものでもあります。そこで私たちは共創プラットフォームを設計に反映する受け身の姿勢ではなく、コト＝活動と場所が一体となり「重要なデザイナー」としてその機能を拡張し、市民参画プラットフォームの初期段階から藤沢市・管理運営計画者と一体となって積極的に働きかけます。



#### 「ビジョン実現するための3つのポイント」にさらなる取組方針について

「遊理構造理論」の応用
「やりたい」と「これならをう子どもたちをインターナートとして市民の『やりたい』という気持ちから、さらに踏み込んだ心算を定めました。私たちは本年、こどもの育育環境の探求とデザインを中心に仕事をしてきました。1975年にD1財団の助成を受け、こどものあそび意欲を喚起する空間の構造を研究し、1982年にこどものあそびやす空間の構造として、『遊理構造理論』(図3)を発表しました。多くのこども施設の設計に応用してまいりましたが、その後の、この仮説は人々の意欲を喚起する空間の構造として、まちづくり、広場づくり等にも応用し、H市民球場、A大学図書館、F運河水公園、I泉立図書館等で、その有効性を実証してきました。特にI泉立図書館では、利用者より、「本を採るとより好奇心の海を泳ぐように好きになった」と評価をいただきました。本施設においても遊理構造理論を応用します。

「車と歩道を共有するだけの機能の集約・複合化ではなく、公園、図書館などを隣り合わせに、ヒト、モノ、コトをシームレスにつなげる」
1980年代から全国どこでも博物館、自然博物館、水族館、歴史資料館等、多くの建物をつくってきました。その多くは、極めて高い利用率を持つものもあり、集客力と満足度の研究で設計計画を行ってまいりました。満足度を与えるには何かが必要か、その距離、展示数等の関係性を研究し、それを環境デザイン論や、遊理構造デザインとして発表し、総合的な環境デザインの付加価値として、本プロジェクトを進めます。

「施工完成してからの段階で、再投資を前払い、初期段階で、ベンチャー的なとして前払いのニーズを合わせて方向性を決め、新創時代を渡ります」
この方法では、私たちがはるかに多くの実績を持っています。私たちの設計は、研究と実践としての設計・建設、そして、検証という3つの段階を踏みます。建物ができた後、使われ方を検証し、利用者のニーズを発見し、再投資を提案するという方法をとっています。その最高の事例がH市民球場です。従来の野球場と比べ、6割のコストで仕上げ、利用者のニーズに合わせ再投資を行った結果、カープ女子と呼ばれる集団ができるまで、新しいファンをを広げ、獲得するということになりました。そして、更なる投資により、より多くのファンを獲得するという好循環を生んだプロジェクトです。

「管理・運営予定者と基本設計者が協働して計画の策定や設計に携わることで期待できる効果について」
「工事費の縮減、市民利用率の向上、事業性の向上」
私たちは、全部に集約力があり、住民だけでなく、観光客にも利用される多くの中間的価値を手がけてきました。博物館ではなく(建物)そのものではなく、「伝える」(伝える)ことが重要であり、その中にもコンテンツが最も重要であると考えます。私たちは常に、ビジョンコンテンツと一体となった施設づくりを行い、日本でも有数の博物館施設を実現してきました。また、スポーツ施設についても、PR 事業を通じた豊富な設計経験から、管理運営者との共同により、市民利用率と事業性を高め、工事費・運営管理費を通常比1割減という水準で実現してきました。今回も、従来の「設計・建設・運営管理」という形ではなく、運営管理者との協働によって、工事費、市民利用率、事業性の向上が期待できると考えます。

- ①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

「無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与」
①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

- ①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

### コンパクト・シンプル・サーキュレーション・フレキシブルによる“新たな文化的コモンズ”

#### 「コンパクト・シンプル・フレキシブル」に対する考え方、それを実現するための基本設計の工夫について

コンパクト・シンプル
建築の機能は十分に担うコンパクトと基本的事業、空間・面積の無駄、無駄の削減に直結します。基本的事業においても、無駄の削減、無駄の削減に直結します。基本的事業においても、無駄の削減、無駄の削減に直結します。

サーキュレーション・フレキシブル
サーキュレーション・フレキシブル
サーキュレーション・フレキシブル
サーキュレーション・フレキシブル



### すべてのひとと地球にやさしい施設づくり

#### アーバンデザインガイドライン（計画書）の策定にむけて、デザインコード等の検討、デザイン方針の提

生活・文化拠点エリアの魅力最大限に引き出すデザイン
アーバンデザインガイドライン（計画書）の策定に当たり、以下の事項に留意して生活・文化拠点のポテンシャルを最大限に活かした検討を行います。（図1）

- ①建物位置：前面道路より30mの隣接距離を確保し、前面道路に対し圧迫感を与えない、「藤沢」の印象づけるとともに。
②建物の高さ、階数：前面道路側の立面計画は、体育館の高さを越えない高さとし、建物の階数は基本的に4階までとします。
③大きな屋根のある建築外観（図3.4）
「大きな文化の希望の家」というべきイメージを市民に抱いていただくために、大きな屋根を持つ、市民に親しみやすい外観状とします。「人が集い、暮ら、暮らさ文化芸術の共創拠点」を藤沢市文化を象徴する大きな希望の家一層がある施設とします。

- ④新林公園への景観的改善
藤沢文化拠点と新林公園との関係性を増すために、景観的によつながらをもつ改善が必要で、施設を南側に設置します。（図5）
⑤堀川からの景観整備
堀川からの景観も極めて重要で、南面にもありメインホール・ライブラリーホール・マルチホールと分節し、ヒューマンスケールの線やかな親しみやすい計画とします。
⑥色：藤沢市の「色彩景観ガイドライン」に準拠して、藤沢、湘南文化を象徴し、周辺環境との調和をはかる色彩計画とします。湘南の海との関係から、サンベロ、白灰色を基本とします。

- ⑦緑：藤沢市の「緑化計画」に準拠しながら、バラコンの緑い木々、建物と調和した同系統の色彩とし、バリエーションデザイン、ユニバーサルデザイン、高齢社会に配慮した幅広い利用者の意見を聞き、検証しながら、デザインガイドラインを策定します。
⑧照明
夜間の安全性を十分担保できる明るさで、平均照度50lxを確保した上で、都市広場についてはイベント時、演出的な照明も可能な計画とします。
⑨緑に関するガイドライン
⑩既存樹木・既存樹木を可能な限り残し、保全します。（図6）
⑪緑地：季節に合わせて、本施設、広場がやま、にぎわいをもたらすような緑地計画をベースに、河川沿いは、緑地を提案します。（図7）
⑫緑道：敷地南側には、河川沿いの緑道を整備します。建物は敷地縁より、10m以上緑地を確保します。（図8）
⑬日陰空間の設置
今後、我が国も、地球温暖化の影響から5月～11月間で、猛烈な日照・夏暑熱となる可能性が高まると見られます。そのため、オープンスペースにも日陰をつくる高木の植栽が必要ですが、仮想的なネット等での設置ができるような取組も重要です。（図9）
⑭スライラ広場を都市広場の設置（図9）
スライラ広場を都市広場の設置（図9）
スライラ広場を都市広場の設置（図9）

「無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与」
①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

### すべてのひとと地球にやさしい施設づくり

#### アーバンデザインガイドライン（計画書）の策定にむけて、デザインコード等の検討、デザイン方針の提

生活・文化拠点エリアの魅力最大限に引き出すデザイン
アーバンデザインガイドライン（計画書）の策定に当たり、以下の事項に留意して生活・文化拠点のポテンシャルを最大限に活かした検討を行います。（図1）

- ①建物位置：前面道路より30mの隣接距離を確保し、前面道路に対し圧迫感を与えない、「藤沢」の印象づけるとともに。
②建物の高さ、階数：前面道路側の立面計画は、体育館の高さを越えない高さとし、建物の階数は基本的に4階までとします。
③大きな屋根のある建築外観（図3.4）
「大きな文化の希望の家」というべきイメージを市民に抱いていただくために、大きな屋根を持つ、市民に親しみやすい外観状とします。「人が集い、暮ら、暮らさ文化芸術の共創拠点」を藤沢市文化を象徴する大きな希望の家一層がある施設とします。

- ④新林公園への景観的改善
藤沢文化拠点と新林公園との関係性を増すために、景観的によつながらをもつ改善が必要で、施設を南側に設置します。（図5）
⑤堀川からの景観整備
堀川からの景観も極めて重要で、南面にもありメインホール・ライブラリーホール・マルチホールと分節し、ヒューマンスケールの線やかな親しみやすい計画とします。
⑥色：藤沢市の「色彩景観ガイドライン」に準拠して、藤沢、湘南文化を象徴し、周辺環境との調和をはかる色彩計画とします。湘南の海との関係から、サンベロ、白灰色を基本とします。

- ⑦緑：藤沢市の「緑化計画」に準拠しながら、バラコンの緑い木々、建物と調和した同系統の色彩とし、バリエーションデザイン、ユニバーサルデザイン、高齢社会に配慮した幅広い利用者の意見を聞き、検証しながら、デザインガイドラインを策定します。
⑧照明
夜間の安全性を十分担保できる明るさで、平均照度50lxを確保した上で、都市広場についてはイベント時、演出的な照明も可能な計画とします。
⑨緑に関するガイドライン
⑩既存樹木・既存樹木を可能な限り残し、保全します。（図6）
⑪緑地：季節に合わせて、本施設、広場がやま、にぎわいをもたらすような緑地計画をベースに、河川沿いは、緑地を提案します。（図7）
⑫緑道：敷地南側には、河川沿いの緑道を整備します。建物は敷地縁より、10m以上緑地を確保します。（図8）
⑬日陰空間の設置
今後、我が国も、地球温暖化の影響から5月～11月間で、猛烈な日照・夏暑熱となる可能性が高まると見られます。そのため、オープンスペースにも日陰をつくる高木の植栽が必要ですが、仮想的なネット等での設置ができるような取組も重要です。（図9）
⑭スライラ広場を都市広場の設置（図9）
スライラ広場を都市広場の設置（図9）
スライラ広場を都市広場の設置（図9）

「無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与」
①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

### 『藤沢らしさ』を生み出し、育み続ける『希望の家』を目指した対話

#### 設計対話の実施方針について提案すること

設計対話における設計者の、取組方針
複合施設の管理運営、文化芸術、まちづくり等に関係する様々なステークホルダーが関わる本プロジェクトにおいて、私たちは設計者、それぞれのステークホルダーと密な関係性を行い、かつ、キーパーソンとして設計対話を通じて関係者の価値観等の「共通言語」を創出し、試しながら複合施設に必要な要素を明確化していくことが重要です。

「無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与」
①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる

「無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与」
①無断な空間を省き、共通利用を図ることで、工事費・メンテナンスコストの削減に寄与
②市民利用・来場者利用の向上に寄与
③民間事業者の参入を積極的に検討することで、事業性の向上に寄与
④計画立案および運営に市民の参加が期待できる